

集会案内

日曜日

礼拝：2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokuyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村幸牧師

電話 (714)527-1456

Eメール: sugimura1950@gmail.com

◎石川 ■

「いのち」

医師であり伝道者でもある下稲葉康之氏の書いた『いのちの質を求めて』（「ホスピス病棟日誌」いのちのことば社・一九九八）の証しが心の琴線に触れた。

ぐつたりと車椅子に座り、疲労感も頭わな夫に寄りそう不安げな妻。それと対照的に、あどけない笑顔の五才のひとり娘。入院してきた患者は、四十一才の青年医師・池田耕一さんだった。約二年前に血便に気づいた。大腸がんの診断。何度も手術をし、抗がん剤治療も受けたが、病状は悪化。万策尽きて、下稲葉医師の勤める福岡亀山栄光病院のホスピス病棟への転院となった。彼の妻は言った。「今まで肩ひじ張ってがむしやりに頑張ってきたんですけど、疲れがどっと出て、いっそのこと一緒に死のうかと思つたこともありました」。確実に迫る死の前に、そこには重苦しい雰囲気は漂つていた。そのようなある日、下稲葉医師が呼ばれた。「耕一さん、どうして欲しい？」と尋ねると、しばし沈黙が続いた。沈黙の重さに耐えかねて、彼に語りかけようとしたその瞬間、彼はおもむろに口を開け、ひとことだけ、「いのち」と言った。池田さんは医師として回復の可能性は万に一つもないことを知っていた。その彼が願ったいのちとは、身体的いのちではなく、死ぬべき自分を支える「いのち」なのだと感じた。下稲葉医師は主の助けを仰ぎつつ福音を語り始めた。うなずきながら聞いていた彼の目からいつしか涙が流れ落ちていた。下稲葉医師は彼の両手を握り、声を詰まらせながら祈った。翌日、彼はもう声が出なくなっていた。「耕一さん、イエス様信じた？ イエス様が一緒にいてくれることが分かった？」と尋ねると、池田さんは頭をもたげるようにして、太い手でしっかりと下稲葉医師の手を握り返した。入院十七日目。池田さんは「いのち」を得て天に帰って行った。

イスラエルの王ダビデは「あなたのいくしみは、いのちにまさる」（詩篇六三・3）と詠（うた）った。この世のいのちにもまさるものとは、救い主イエスを通して与えられる救いであり、永遠のいのちのことである。池田さんは限りあるこの世のいのちの向こうに、神の領域があることに信じたのである。そして、そこにこそ本来のいのちがあると知って、そこに彼の全てを託したのだった。これが福音である。これに優る良き訪れを人はいまだ知らない。

Rev. Takasa Sugimura

【わたしたちの教会の歩み】

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村幸牧師をはじめ、加藤伸江姉、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをしております。

【ミッション ステートメント】

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。